

地図で見る東成の移り変り

浪華図



浪華往古図

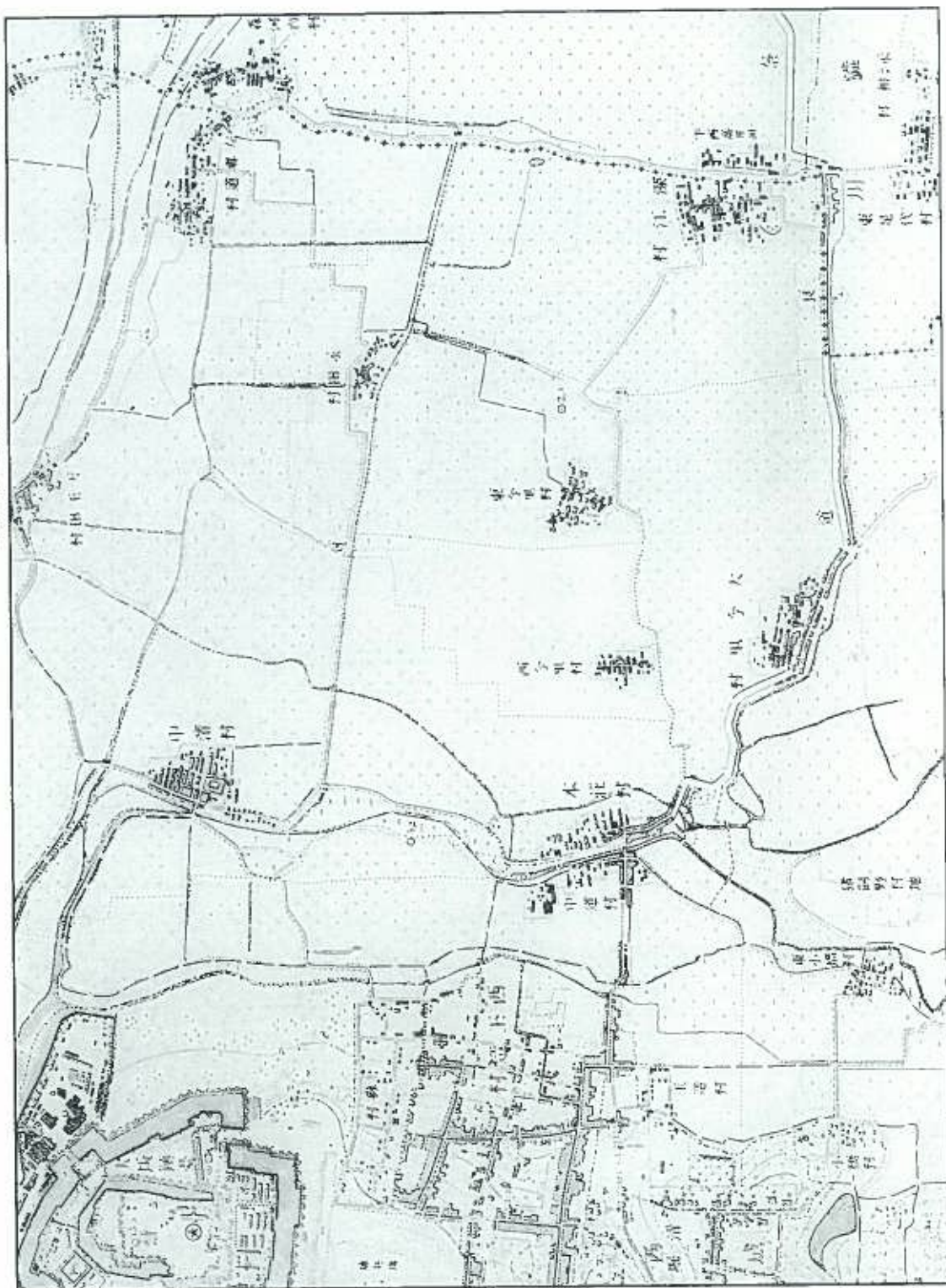


摂津河内絵図

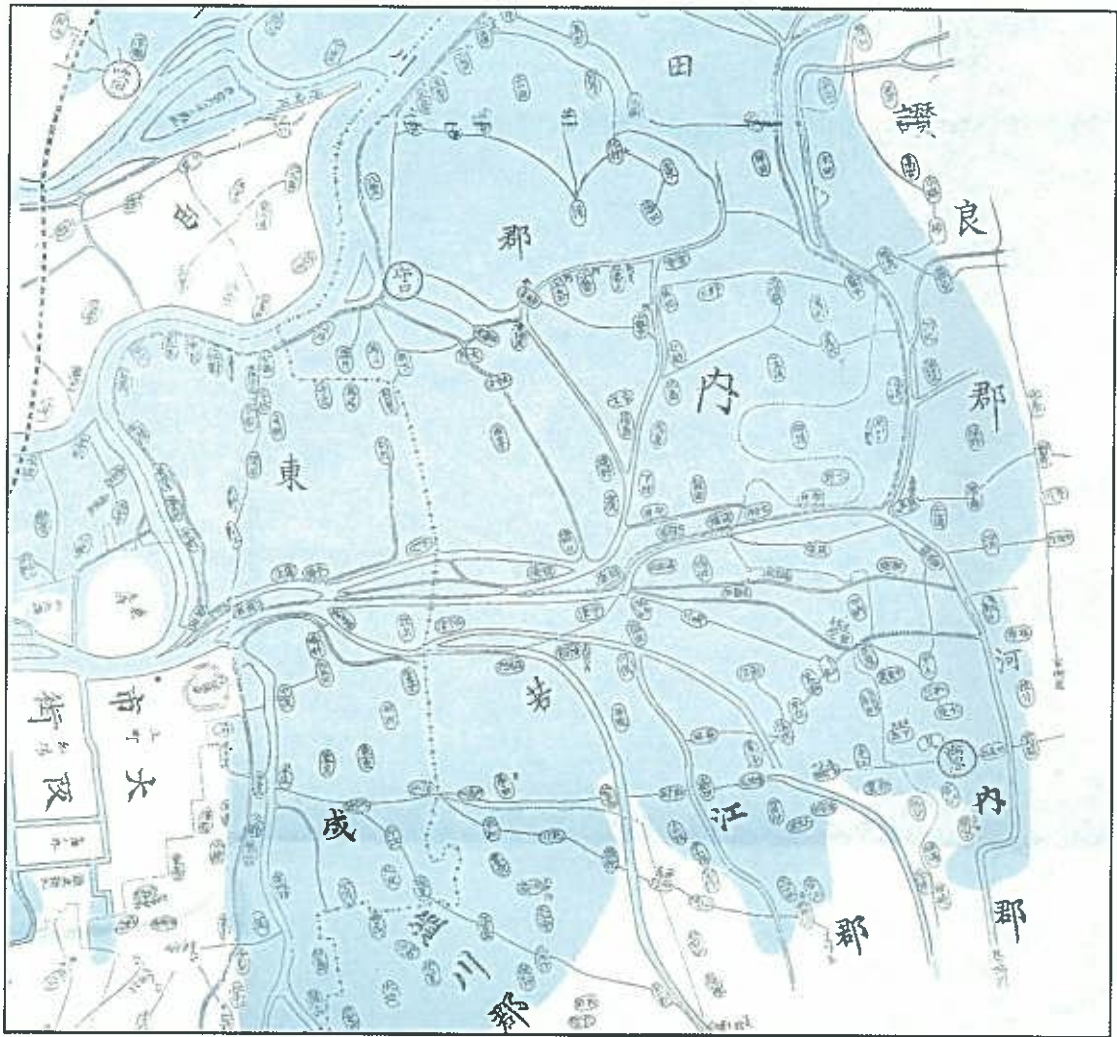


明治18年の測量図

■明治の東成は水田の中に村落が点在するのみで、鉄道はまだ敷かれていない。堺越奈良街道の道の太さがひとときわ目立つ。



明治18年淀川大洪水浸水区域図



淀川左岸右岸両水防事務組合

明治の東成区にとって特筆すべき出来事は淀川堤防決壊による大洪水です。明治18年（1885）6月17日、降り続く大雨のため現在の枚方大橋付近で堤防180mが決壊し、河内平野一帯を泥沼と化し南は生野区及び東大阪市の旧布施地区にまで達しました。その後続く大雨でさらに増水し、高台を除く大阪市内は深さ3mに達する状況に陥りました。

「帝国商工業大都市ノ安危盛衰ノ繁ル所改修ノ業一日モ暖フスヘキニアラス」（紀功碑）と、淀川改修期成同盟が結成されました。熱心な活動の末、明治29年（1896）3月河川法が制定され、淀川の改修工事が始められましたが、こうした中またもや大正6年（1917）に高槻の大塚切れの大洪水があり、苦労は絶えませんでした。

大正・昭和の時代でも台風や高潮の災害が相次ぎ、さきの枚方切れや大塚切れの浸水区域をもって結成された淀川両岸の水害予防組合（水防事務組合の前身）が、区域内の組合員をもって水防団を編成し、農村部のみならず自営商工業者も含むすべての大阪の人々の力を結集して郷土の母なる川、淀川を営々と防衛しながら、その恵みをも享受してきたことは忘れてはなりません。

大正10年の測量図

■中道、東小橋など西部で市街地の発達が見られるが、また全体的には水田地帯であった。城東線、大阪電気軌道現在の近鉄はすでに完成し、改修完成間近の、新平野川の直線が際立っている。



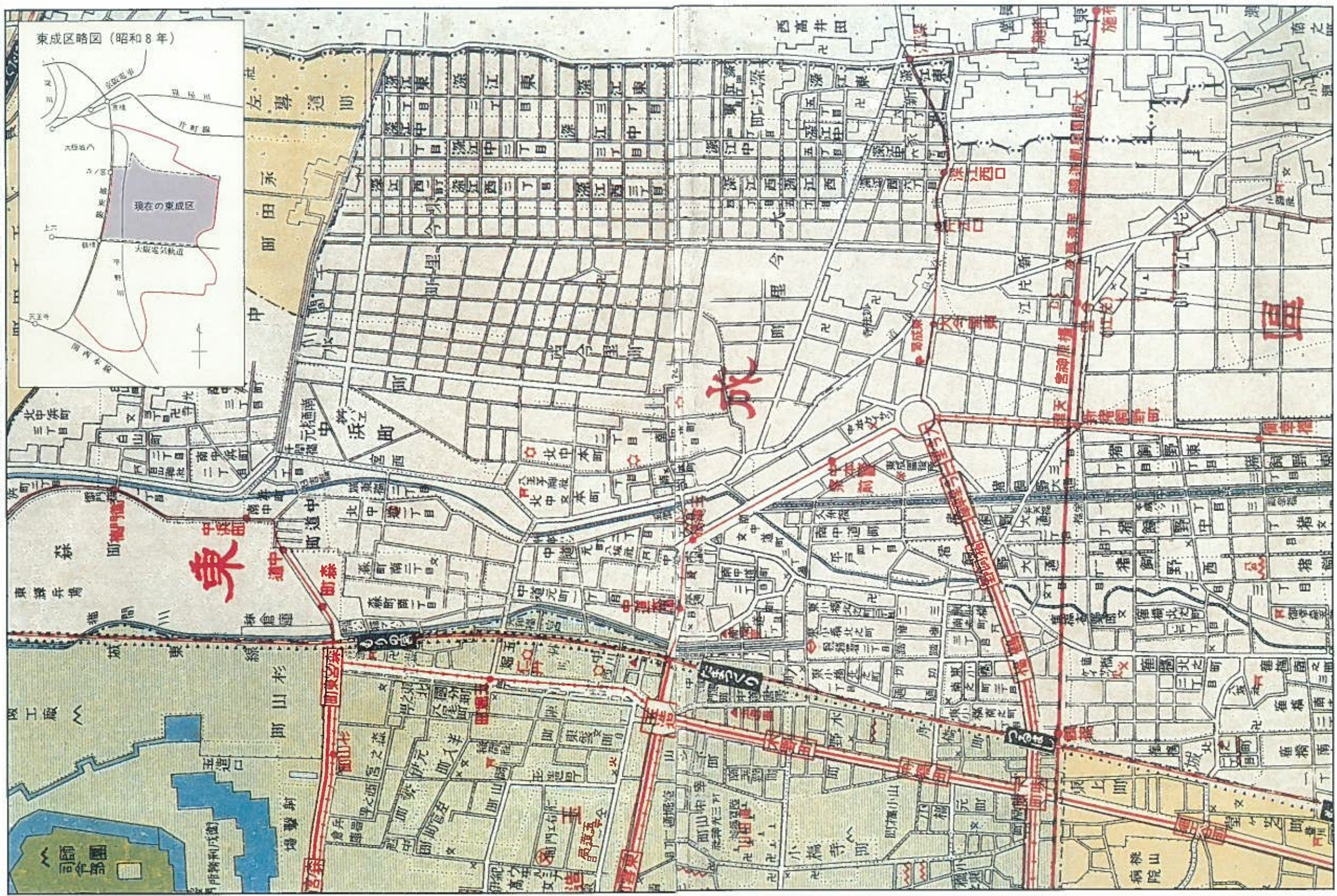
昭和2年第1次東成区域図

■東成区発足間もない頃で、区役所は鶴橋木野町にあった。
今里付近で市街が発達し始め、市地下鉄線（今里線）が完成している。



昭和8年第2次東成区域図

■東成区から地区が分画した頃で「森ノ宮」「鶴橋」「今里」に鉄道の駅が次々と開設され、現在地に移ってきている。今里ロータリーも完成間近で、東成での市街地の発達が著しい。区役所も



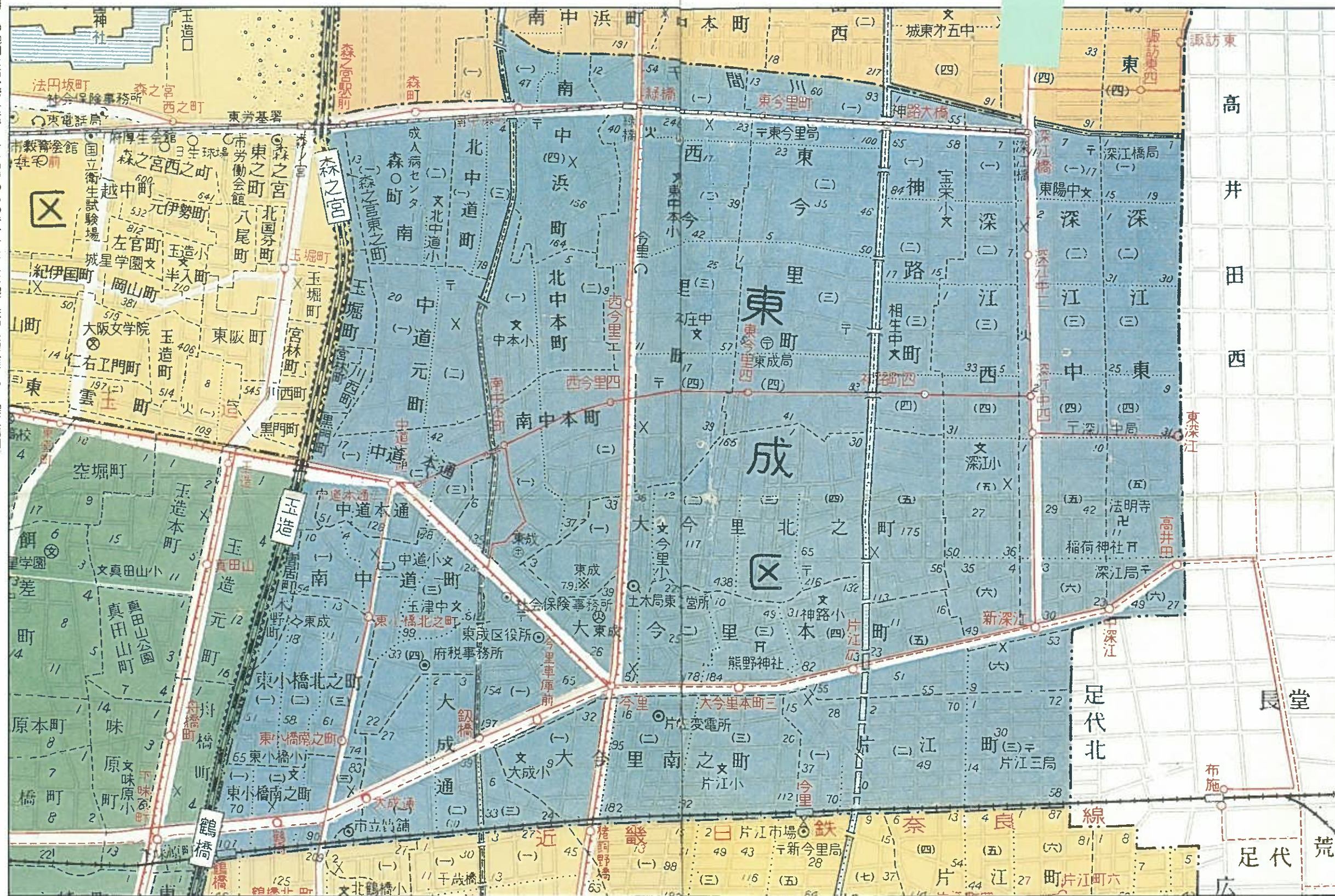
昭和21年第3次東成区域図

■戦災焼失区域(シンク)を表示した終戦直後の地図で、破壊で示されている市
場は通行されていない。東成区は昭和18年より現在の区域になっている。

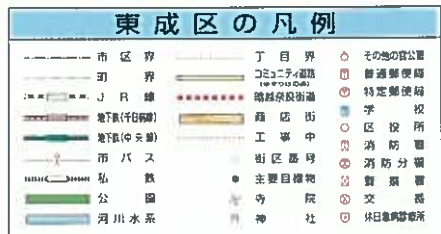


昭和44年東成区域図（住居表示前）

この地図は市電が全廃された当時のもので、前年には地下鉄中央線（森ノ宮〜深江橋間）が開通している。また住居表示が実施される直前で、なつかしい旧町名がみられる。



東成区マップ



成 東 だ 見 だ 空

